

【成果概要】6-2. 気候変動による水害リスクの評価

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

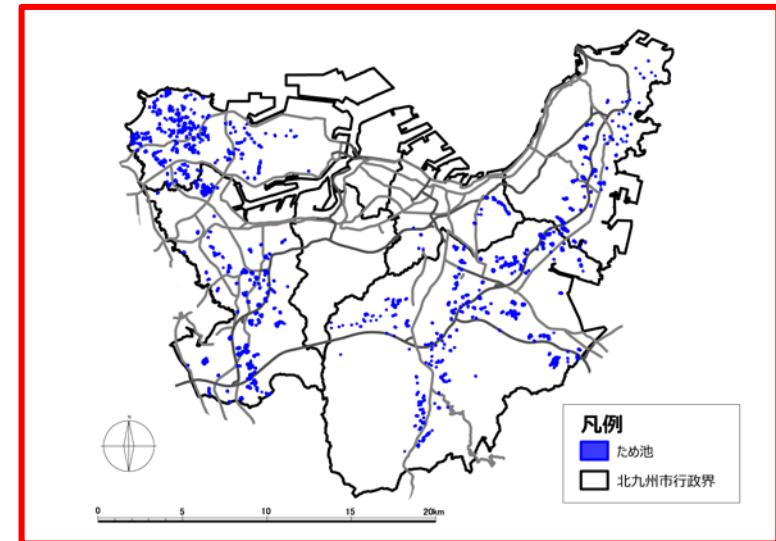
- ・ 気候シナリオから抽出した降水量を予測条件として水害リスクを評価した。現在の降水量では洪水吐から越流しないため池のうち、21世紀末(RCP8.5)の降水量(時間最大、日最大降水量)では12箇所(北九州市内のため池で計算条件が整ったもの422箇所)が越流する予測結果となつた。
- ・ 北九州市内のモデル池において、ため池氾濫解析ソフト(SIPOND)を用いて氾濫解析を試行した。その結果、約3km下流まで浸水することがわかつた。

■ 明らかとなった課題

- ・ 気候シナリオから抽出できる降水量のデータ数が20年間分であり、現況と将来の降水量の変化を比較するためにはデータ数が少なく、予測条件の降水量の設定に課題があることがわかつた。

■ 平成31年度の調査計画

- ・ 降水量の統計的な確率値の設定
- ・ ため池氾濫解析ソフトによる被害予測、適応策効果の検証
- ・ リスク周知方法の検討
- ・ 他地域への拡張性検討



北九州市におけるため池の分布
【出典】北九州市提供データを元に九州環境管理協会作成